



# 新鶴見小

江ヶ崎町2番1号 ☎583-8915

## 「25周年を迎えたその日に」

副校長 岡崎 大輔

過去、例のない3カ月間の臨時休校を経て、学校再開から1カ月が過ぎました。4月に入学、進級をしてから2カ月近く足踏みを余儀なくされましたが、学校に子どもたちが戻ってきました。久々の登校で元気いっぱいの子、ぐんと背が伸びていて成長が目に見える子、新しい学級のスタートで不安そうな表情の子など、子どもたちの反応はさまざまです。置かれた状況はそれぞれですが、子どもたちが一緒に成長していけることが何よりも大切であり、それを妨げてはいけないと強く感じています。休校期間中につくづく実感させられたことは、「子どもあつての学校」ということです。子どもたちが戻ってきてくれたことを心からうれしく思います。感染症対策を講じつつ、今後も教育活動を続けていけるよう努めてまいります。

さて、学校再開から間もなくの6月12日に本校は創立25周年を迎えました。その日は分散登校であったことから、創立記念式を午前・午後と2回に分けて、テレビ放送で行いました。予定していた航空写真の撮影、記念まんじゅうの配付は延期としました。25年という本校にとって一区切りの1日であったのに、お祝いもできず、心苦しく思っていました。その日の放課後、地域の方から「今日は新鶴見小学校の創立記念日だからお花を届けるよ」と1本の電話がありました。特に周知していたわけでもないのに、特別な日であることを覚えていてくださって、学校に100株のサルビアが届きました。寂しい気持ちでその日を終えようとしていましたが、こういう地域の方がいるのだと、コロナ禍で沈んでいた気持ちに花が咲くように、うれしく誇らしい気持ちになりました。その100株のサルビアは、本校入り口の花畑から正門まで、子どもたちを見守るように植えられています。これも学校・地域コーディネーターの方々協力して植えてくださいました。ありがとうございました。



鶴見区の花【サルビア】

そんな温かい地域の方々を支えられながら、新鶴見小学校は学校再開とともに、26年目をスタートしました。給食の再開、夏休みの縮小による熱中症対策、スポーツフェスティバルや宿泊行事の検討等、課題は多くあります。地域や保護者の皆様に、これまでと同様にはお披露目できない行事も考えられます。制限はあるものの、ご理解をいただきながら、「子どもあつての学校」という考えのもと、教育活動を進めてまいります。

最後に、本校と四半世紀を共に歩んできた地域の皆様に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。今後とも新鶴見小学校をよろしく願いいたします。